

## 9. 建築物

### 9-1 コタンの状況

明治43年2月20日に虻田に生まれだが、その年の7月23日に噴火した。それで私を背負って熊を連れて孫ばあさん達は逃げたそうだ。

私が生まれた頃はまだ汽車はなかった。人々は室蘭から歩いて遊びにきたものだった。

土人学校とシャモ（日本人）の学校の2つがあった。いま虻田の役場になっているところに土人学校があった。学校では白井先生になった。学校のすぐ近くの育てのばあさん（祖母の姉）の家で育った。

虻田には12、3までしかいなかった。それから奉公に有珠へ行かされた。18で結婚して19で子どもができた。だから虻田のことも覚えている。

[有珠、堀崎さく氏]

### 9-2. 家屋の内部構造

窓は空窓と上座の窓（ロルンプライ *rorunpuray*）の2つしかなかった。窓にはすだれがかかっている、紐が付いていて、引くとしまるようになっていた。空窓は家の前の方に東側を向いて付いている。家の戸は海を向いていた。ロルンプライは東側（室蘭の方）を向いている。育った家は大きな家で、4つも5つも部屋があった。山手の部屋には油、干し魚、干した薬草などをしまった。その外に高床の倉もあった。

窓から家をのぞくこと（アウォインカリ *awoinkar*）は、行儀が悪いと言われていた。神様が窓から光を入れてくれるので窓を大切にした。

ルサ *rusa*（すだれ）は茅で作る。キナ *kina*（ござ）はがまで作る。

昔の人は寝床を高くして、すだれをひいて寝た。

イヌムベ *inumpe* 炉縁。イヌムベは神様がいるから踏んではいけないといわれていた。お酒を飲むときは炉かぎや炉縁に捧げて、良いものばかり煮炊きするように、と祈って酒をこぼして（イチャラパ *icarpa*）からでないといふと飲まなかった。また、戸口にも良い人ばかり入って来るようにお祈りして酒を捧げた。

イヌンベは「親方の頭」ぐらい値打のあるものだ、と言われる。

猫があると犬は上座に行っていばっているが、猫が無いと庭の隅に丸くなっている所以家の人はわかるそうだ。

火棚。火棚は、二段になっていて、上のルサッケブ *rusatkep*には凍ったつまごや赤ケット（毛布）を置いて干し、下のイサッケブ *isatkep*にはアワなどの食べ物を置いて干したり、生魚を薫

製にした。

豚でも塊で買ってきた。煮て火棚の上に載せて薫製にした。自分がわかった(物心のついた)頃は、クマは飼っていなかった。

焚き木をツクニ *cukuni*という。ツクニ ウク ワ エク *cukuni uk wa ek*「薪を持って来い」と子どもが使われる。ニー *ni*は山の木や枝をまだはらっていないような木のこと。下屋(土間のあるさしかけ)に薪を置いておいた。アペアレ *apeare*とは、「火を焚く」こと。アペウシ *apeus*とは、火が消えること。

まき(薪)はたくさん10敷も積んでいた。1 m幅もあるガンピ皮で火を炊きつける。これは取ってきてしまっている。タツ コロ ワ エク *tat kor wa ek*「ガンピ皮持って来い」という。

薪は、中心の1本の太い方(根元の方)を神窓の方向に、頭(細い方)を下手に向けておく。添え木を両側から各1本、先端が交差するように形に組み、その交差部に中心となる1本の薪の太い方(根元の方)をのせ、交差部(組み合わせたところ)の下にガンピの皮のたきつけを置いて、火をつける。添え木の裏、表は問わない。

火箸のことをアペパスイ *apepasuy*という。流しは見なかった(川の水を使ったのか)。

[有珠、堀崎さく氏]

### 9-3. 屋敷の構造

昔の家にはロルンプライ *rorunpuray*「上座の窓」があり、外にはヌサ *nusa*「祭壇」があった。熊をとる人は熊の頭が祭ってあった。ロルンプライは東の方を向き、「東」は室蘭の方の事。山の方に向いていたのではない。ミズキのイナウ *inaw*が祭ってあった。

ロルンプライ *rorunpuray* (神窓)の方、東の方は、神様がいらっしゃる。

便所は土に穴が掘ってあって、板が二枚渡してあるだけだった。子供が板を踏み外して汚くなると、そばの小川(ポン ペツ *pon pet*)から水を汲んできて、洗わせられる。尻はトーキビの皮で拭いた。山で大便をするときは、フキの葉(コルコニ ハム *korkoni ham*)で拭いた。

水ははねつるべの付いている井戸から取った。

昔話に、水汲みに行かされた子どもが、アイヌパタウン、イヌムベ ネ ワ ワクカ カ ター ソモキ *aynupataun, inumpe ne wa wakka ka ta somoki*「いいなあ、炉縁だから、水汲みもしないで」、と文句を言ったら、神様に怒られてお月さんに連れて行かれて一生水汲みさせられている、というのがあった。おまえもなまけたらああなるんだ、と言われた。

[有珠、堀崎さく氏]

### 雪囲い

冬、家の入口の前に雪囲いをした。杭を何本か立て、横木を渡し、カヤカタカキビのわら束を縛りつけた。春になったら取り除く。

図22. 雪囲い

